
落し物

アオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

落し物

【Zコード】

N6136C

【作者名】

アオ

【あらすじ】

幼稚園からの友達だった明美あけみとお祭りに行つたつくりし。帰り道で、大切なものを落としてしまったことに気が付く…

(前書き)

ホント、下手でベタでしょーもないけど、短いんで目を通して貰
たうれしいです。

落し物

太陽は沈みかけていて、最後の足掻きを見せていた。
きっと、夕焼けがオレンジなのは太陽が頑張つて足掻いているから
だ、と、勝手に思つたりする。

「今日のお祭り、あけみ楽しかったね！」

すぐ隣で、友達の明美あけみが、結局1匹も釣れくて、屋店のオジサンの
情けで手に入れた金魚を眺めていた。3匹の汚い金魚を手に入れた
私より、輝いているような1匹の金魚をもらつた明美の不平を、や
はり、女は可愛さね…と思う私だつた。

「うん、けつこー楽しかった」と、礼儀的に笑みを浮かべて、私は
言つた。

「……ああつ」

私は、突然大声を出した。

「ど、どうしたの？つくし。いきなり大声出して」

ポケットに入れてたはずの、私の宝物がなくなつていた。

……きっと、お祭りの中で落としちやつたんだ……

不思議そうにこちらを見る明美に、「ごめん！！先に帰つて！！

！」と大声で言つた。

「え、つくし？どうしたの？」

明美をおいて、私は探しに行つた。

「ええー、どこにあるのよ」

地面を注意深く見ながら、探す。

まだお祭りの熱氣は引いていない。立っているだけで、押しつぶされそうだ。

「…………」

さつきは明美がそばにいたから何ともなかつたけど、一人がこんなに寂しいなんて…

泣きたくなる。

もう、見つからないかも……

もう太陽は疲れて、月が見える。祭りの熱氣はいつの間にか無くなつて、そして、人が少なくなつてきた。

人がいなくなると探しやすいと思つたのに、今度は暗くなつてきて、あたりが薄暗く、もつと心が寂しくなる。

疲れてくると、やる気もなくなつてきた。

もう、いいや。

そう諦めようとした時……

「つくし——！」

驚いて勢い良く振り向く。

「…………明美」

緊張の糸が、ぷつんと音をともなつて切れた。
眼から涙が止まらない。

こんなにも、明美って心強かつたんだ……

「『ごめん』ごめん！懐中電灯を探してたら、遅くなっちゃつた……つくし？」

明美の前で泣いたことなんて、今までなかつた。

泣いたら、明美に負けちゃう気がしたから……

「大丈夫？」

明美は真剣に心配している。

明美は笑みを作る。

…こんなのが、勝てるわけなかつたじゃん……

私の何万倍も、明美のほうが強かつた。

「…ううん、何でもない」

そういうと、明美は「じゃあ、一緒に探そう。きっと一人ならすぐ見つかるよ」

うん、とできるだけ元気に言った。

結局この日は、私の宝物は見つからなかつた。

でも……

「明美！一緒に帰ろー！」

「うん……」

ずっと失くしていた「宝物」は、見つかったみたいですね。
本当に私が落としてたものは、これだったのかも知れませんね。

(後書き)

この小説は、自分の大切な人を本当に愛しているか、そのことを伝えたくて書きました。

この小説を読んで、大切な人に一言いえるきっかけになるんなら、うれしい限りです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6136c/>

落し物

2011年1月27日08時14分発行